

## 平成 27 年度 第 2 回花巻新渡戸記念館運営協議会会議録

期日：平成 28 年 2 月 23 日（火）

場所：花巻新渡戸記念館

1. 日 時 平成 28 年 2 月 23 日（火）午後 1 時 30 分～2 時 41 分

2. 場 所 花巻新渡戸記念館事務室

3. 出席者

（1）委員：木村清且委員（会長）、内舘勝人委員（副会長）、平塚正隆委員、小原幸子委員、上村正三郎委員、福盛田弘委員（計 6 名）

（欠席委員：高橋トシ委員）

（2）市側：嶽間沢茂新渡戸記念館長、玉山進副館長、中島明子主査

4. 会議の顛末

### ●委嘱状の交付

副館長：開会前に委嘱状の交付を行います。

花巻観光協会から推薦をいただいております伊藤新一委員が昨年 12 月 31 日付けで退職いたしましたことから、後任として同協会の専務理事の平塚正隆様をご委嘱申し上げますので、よろしく願いいたします。

（嶽間澤館長より平塚正隆氏へ交付）

また、国際ソロプチミスト花巻から推薦の杉本摂子さんが、昨年 12 月に会をお辞めになりましたことから、その後任として、同会の会長であります高橋トシ様を委嘱することといたしました。本日は、本人のご都合で欠席ですが、後日委嘱状を交付することといたします。

### ●会議の傍聴希望について

副館長：本日の会議傍聴希望者がいないことを報告します。

### ●会議成立の報告

副館長：予定の時刻になりましたので始めさせていただきます。それでは最初に、本日の会議の成立についてご報告いたします。本日欠席の報告がありましたのは、高橋トシ委員のみでございます。従いまして、委員 7 名中 6 名の出席であり、過半数の出席をいただいておりますので、新渡戸記念館管理運営規則第 7 条第 2 項の規定により会議が成立していることを報告いたします。

### ●開 会

副館長：それではただいまから平成 27 年度第 2 回花巻新渡戸記念館運営協議会を開催いたします。

### ●あいさつ

副館長： 開会にあたりまして、最初に当館の嶽間澤館長よりあいさつ申し上げます。

館長： お忙しい中、また寒い中出席をいただきありがとうございます。第2回目の運営協議会を開催させていただくわけではありますが、7月のメンバーからおふた方がお代りになっております。一人は、国際ソロプチミスト花巻の高橋トシ様が、もう一人は先ほど委嘱状を交付させていただきました花巻観光協会の平塚正隆様です。よろしくお願いいたします。

前回7月の末に第1回の運営協議会があり、それ以降のことについて報告いたします。7月23日に前委員の伊藤新一さんからお話がありまして、東京近辺、新幹線開業に伴って函館・札幌に8月に岩手県・岩手県内各市町村の観光担当者が修学旅行担当者への説明会を行う旨の連絡がありました。このことから、8月21日に東京のホテルメトロポリタンで修学旅行業者への説明会がありまして、チラシを持参のうえ出席してまいりました。9月には、函館・札幌での説明会がありましたが、これは今年3月から新幹線が開業しますことから、今後修学旅行生の取り組みも出てきますことから、伊藤さんに当館のチラシをお願いし対応いただいたところです。

10月には、毎年開催しております開館記念行事・新渡戸フェスティバルを実施いたしました。今年は、新渡戸基金の藤井茂氏をお招きし、記念講演を行いました。また、10月から「あったかいなはん号」が二年半ぶりに復活いたしまして、市内のホテル等に宿泊しております観光客が半日コースあるいは1日コースで観光するもので、今月の利用者だけでも50名くらいありましたし、10月から1月までで約500名の方々が当館に来館しています。以前コースに組み込まれていたときは、年間1,500名から2,000名の来館者がありましたことから、観光協会には大変感謝しております。現在、昨年を上回る入館者数の状況となっております。

秋の共同企画展につきましては、新渡戸稲造のおじいさんであります新渡戸傳について取り組みをいたしました。

それから、生涯展の展示につきまして、年代別に新渡戸稲造の生誕、留学時代あるいはヨーロッパでの活躍の時代とか色別に分類してわかりやすい展示にいたしましたところ です。

また、館内の監視カメラを3台更新しておりますし、今月末までに館内の説明を英語、台湾語、中国語、韓国語の4か国語説明ができるよう整備しているところです。台湾からの直行便もあるやに聞いておりますが、外国の方々に理解していただけるような体制を整備しております。

次年度につきましては、6月頃に入館者50万人に達する予定でありますので、それに伴う記念行事も考えております。また、昨年まで4年間かけて、小学生、中学生、高校生および一般を対象に新渡戸教室を開催してきました。来年度は、小学生に戻って5・6年生を対象に「新渡戸稲造からの贈り物」という紙芝居をパネルにして展示したいと考えております。10月1日には、新渡戸フェスティバルを予定しておりますが、岩手県の推薦図書である「新渡戸稲造物語」を書かれた柴崎由紀さんをお招きして、新渡戸教室のメインとしてお話をいただきたいと考

えております。

以上となりますが、次年度に向けた取り組みについてご意見を賜りたいと存じますので、よろしくお願いいたします。(挨拶内容一部要約)

副館長： 続きまして、挨拶を頂戴いたします。木村運営協議会長お願いいたします。

木村会長： 皆様ご苦労様です。先ほどは、館長より次年度の取り組みについてお話がありましたが、今年は、宮沢賢治生誕 120 年、啄木生誕 130 年の年で県内外から観光客が花巻を訪れるのではと期待しております。毎年この協議会で前年度と次年度の事業について協議をいたしておりますが、本日はよろしくお願いいたします。

### ●協 議

副館長： それでは、新渡戸記念館管理運営規則によって議事の進行は会長が務めるとありますので、この後、議事の進行についてよろしくお願いいたします。

議長(会長)： それでは協議に移ります。協議事項 1、平成 27 年度事業及び利用状況等の報告について事務局から説明をお願いします。

(中島主査・玉山副館長が資料に基づき、平成 27 年度事業報告について説明を行う。)

議長(会長)： ありがとうございます、それでは事務局から説明のありました内容について、なにか質問ご意見がありましたらお願いいたします。

福盛田委員： 「あったかいなはん号」のコースに組み入れたということですが、いつまでということがありますか。

館長： コースは、半年ごとに変更になりますので、いつまでということは難しいところです。

福盛田委員： 現在、十和田のほうでは閉館しているようですから、関心のある方は盛岡・花巻に来ているのではないかと思います。こうしたことから、コースに組み込まれることを期待したいものです。

平塚委員： 資料に共通券で販売分と他館販売とありますが、他館販売とは、共通券と認識してよろしいでしょうか。

副館長： 共通券は、賢治記念館、賢治童話村、博物館、新渡戸記念館で販売いたしますが、他館と申しますのは新渡戸記念館以外で購入し当館に入館していただいたものとなります。

平塚委員：入館者の利用区分について、地元の方または観光客がどれだけという区分は中々難しいと思いますが、新渡戸記念館の利用者として市内の方と観光客がどのような比率となっているのでしょうか。また学校関係は免除者に入っているのですか。

副館長：学校関係につきましては、団体に区分されております。免除者につきましては、障がい者に該当される方や、取材等で入館された方などが該当します。また、市内の方と観光客の割合となりますと、現状として掌握できないのが実態です。ただ、団体の方々につきましては、団体申し込みがありますのでその点につきましては可能と考えております。従って個人の方々の把握は難しいわけですが、感覚的には市内の方々の入館は少ないのではと感じております。

議長(会長)：他にありませんか。よろしいでしょうか。

委員：なし

議長(会長)：次に協議事項2の平成28年度事業計画についてを議題といたします。事務局の説明をお願いします。

(中島主査・玉山副館長が資料に基づき、平成28年度事業計画について説明を行う。)

議長(会長)：ただ今説明が終わりました。皆さんから意見などお願いいたします。

議長(会長)：私からお聞きしたいのですが、生誕120年関係でライトアップをするということで、7月・8月が午後7時30分、それ以外は7時ということですが、新たに設置して行うこととなるのですか。

副館長：実際にライトアップするのは、童話村とお聞きしております。

議長(会長)：この記念館は、しないのですか。

副館長：この館のライトアップは、予定しておりません。ただ、記念館といたしましては、他の3館に合わせて、開館延長をおこなうものです。

議長(会長)：入館者の誘導にあたって間違っって転ぶような問題がないのですか。

副館長：敷地内には、街路灯がありますので、様子を見ながら進めてまいりたいと考えております。

福盛田委員：ライトアップにより害虫が集まることも考える必要があるのではと思います。この周辺は田園地帯でもあることから、奇麗に見せるばかりだけではなく環境破

壊つながる可能性もあることから気を付ける必要があると思います。

議長(会長) : 街灯の種類によっても違ってくるので難しいところがあると思います。

小原委員 : 来年2月11日から4月3日まで雛人形展を開催することは実にいいことだと思います。1月下旬に東京都目黒の雅叙園に行ってみりました。その時にくくり雛もたくさん出ており、みなさん珍しがっておいりました。

福盛田委員 : 入館者数の目標が2万5千人となっていますが、私も評価委員会のメンバーでいろいろ意見申し上げたところですが、新渡戸記念館は宮沢賢治記念館と違ってあまり重要視していないのではと市のほうにも話をした経緯があります。当館は入場者も伸び悩んでいる状況にあります。いま太田の高村光太郎記念館もリニューアルして伸びており、この館は賢治記念館からも近い場所にあることから、観光行政でも生誕120年と併せ伸ばす方法もあるのではと話したところ。ぜひ、この目標ができるように努力していただきたいと思います。

館長 : 賢治記念館は、全国的に見ても、とてつもない規模の入館者数です。ちなみに、盛岡市の先人記念館に比べ、この記念館は毎年2,000人ほど多い状況となっています。また、原敬記念館は1万人に達していない状況です。後藤新平記念館は4,5千人となっています。こうしたことから、賢治記念館から当館に廻ってくる方がかなり多いと思っています。盛岡で多いのは歴史文化館で、場所もよく入館者が伸びています。

内館委員 : 桃の節句の写真はいつのものですか。

中島主査 : 今回の展示のために、昨年展示したものを使っております。

内館委員 : 展示はどなたが行ったものですか。

中島主査 : 私が行いました。

内館委員 : 昨年写真と現在の展示を比べてみると、去年は男雛が向かって右になっており時代によって違うのか、所有者によって違うのかどうでしょうか。

中島主査 : 今年の場合、男雛を向かって左、女雛を右に配置しました。関東風(関東雛)と申しますか、京風(京雛)とは別にしたところ。です。

内館委員 : 去年は、時代なのか地方なのかで違いますというような説明書きがあったのか、聞いたのか説明があった気がします。今回の展示は、すべて男雛は左側になっています。

中島主査 : 花巻市博物館で人形を担当していたときは、人形の時代によって変えたりする場合があります。享保雛の場合は、向かって左が女雛で関西飾りといいますが、古い人形はなるべくそのように展示しています。新しい人形に関しては、逆に展示しております。今回展示の人形は、明治よりも新しい人形が多かったのでそのように展示しております。また、くくり雛については、コレクターさんの人形を3年ほど前から展示しておりますが、全国から収集しておりますが花巻にはくくり雛の風習はないところです。

内館委員 : 施設の運営について、市長部局と教育委員会との関係で問題がないかということについてお聞きします。賢治記念館や新渡戸記念館は教育委員会の所管でありましたが、現在は市長部局となっておりますが支障がないかということです。

副館長 : 教育機関ではありますが、補助執行ということで市長部局が担っております。運営におきましては特に問題ないと思っております。条例や管理運営規則の改正では教育委員会を通しての手続きを行う場合はありますけれども、施設の運営については、特段支障なく行っているところであります。

福盛田委員 : 学校関係で宮野目と桜台小学校しか来ていないとのことですが、矢沢が来ていないのが不思議と思いますがどうでしょうか。

館長 : 学校行事としての利用は少ないですが、無料開放とかさまざまなイベントがあるときには、来ていただいております。

福盛田委員 : 学校の校外学習として大いに活用していただきたいものです。

館長 : 毎年学校訪問を行ったり、パンフレットやチラシなどを教育委員会の棚を活用して配布しております。教職員の中で新渡戸を勉強させようという意識が少ないのではと思っています。課題です。また、昨年小中高の校長および退職校長で構成されております日本教育会花巻支部で新渡戸と花巻について話をしてほしいとのことから、6月にグランシェールで講演会がありましたので出向いてきました。その際に、各学校の校長先生や教頭先生に館の利用について話をする機会がありましたので、いづらか浸透してもらえればいいと思っています。せめて、花巻の子供たちに新渡戸稲造の先祖がここだということや花巻は城下町だということを教えてあげたいと思っています。子供のころに花巻の歴史を知って、花巻に生まれたことを誇りに思う大人に成長してほしいものと思っています。

平塚委員 : 先ほどの説明の中で、4か国語対応で説明環境整備しているとのことですが、英語、韓国、中国ともう一つは何だったのでしょうか。

副館長 : 台湾です。

平塚委員 : 繁体字と簡体字ということですね。

議長(会長) : 他にございますか。

全 委 員 : なし

議長(会長) : それでは、その他の事項について事務局からお願いします。

副 館 長 : 事務局からは特にありません。

議長(会長) : 皆様から他に何かありますか。

全 委 員 : なし

議長(会長) : 私のほうからお話しします。四日町から一日市のほうにあります稲造の時代からある商家、町屋ですが、これは盛岡の鉾屋町にある町屋よりも質も歴史も高いと思います。確実に残っておりますのは三丁目の松田昇さんの関係のところ、当時の米問屋の様子ができるように、番傘から全てあり、今そこで働いているのではと思われるような状況になっています。また、一日市側に平野さんという方がおられて、ここも米問屋で格子がきれいに残っています。いずれも盛岡の鉾屋町から比べれば3倍くらいの間口となっています。いかに、当時の花巻は経済的に豊かだったということが分かるもので、盛岡では10年前に南大通りからの道路の拡幅があつて、途中まで来たときに街並みを保存しようとなつて、月1回第2土曜日に、1月だとみずき団子、2月だとひな祭りというようにイベントを行い、現在は月に2回実施しています。この窓口は有志で行っていますが、市の窓口は観光協会となっています。多くの団体による毎月2回のイベントですが、町屋ですので間口が狭く奥行きが長いので、中の空間をイベントで使い、奥は仕切って高齢の方が生活するというような活用をしています。また、最近はやっておりますのは、シェアハウスということで若い方を一階や二階にそれぞれ住まわせています。そうしたことをずっと進めており、住宅局から改造費として最大300万円出ています。毎年5・6棟行っています。盛岡は明治以降のもので花巻よりも新しいものですが、盛岡では文化をひたすら守る活動を行っています。たとえば当館のイベントのようなものを四日町・一日市や熊谷家で新渡戸先生が暮らしていた当時の生活様式の何かのイベントも考えられます。実は、熊谷家を市の指定をしたとき、地域の方々でお祝いをしました。奥座敷を使って昔の食器使い地域の方が餅をつくなどし、私ら小さいときに親戚の結婚式に呼ばれたような雰囲気でした。こうしたことから、さまざま商工会議所などに話をかけながら、当館のバックアップをしていただきながら市民活動としての観光みたいなものを推進していければと考えます。

議長(会長)： 以上で、本日の協議を終わります。ありがとうございました。

●閉会

副館長： それでは以上をもちまして平成27年度第2回花巻新渡戸記念館運営協議会を閉めさせていただきます。本日はありがとうございました。